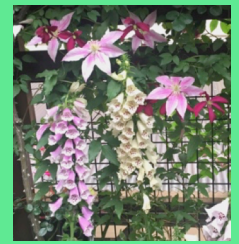




埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：YMI - YMCA Partnership



2021-22年度 会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知れよう」

関東東部部長 大澤和子（所沢）「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」

東日本区理事 大久保知宏（宇都宮）「私たちは次の世代のために何ができるか？」

アジア地域会長 Ohno Ben（大野勉・神戸ポート）“Make a difference beyond the 100th” “100年を越えて変革しよう”

国際会長 キム・サンチェ（韓国）“Y's Men with the World” “世界とともにワイズメン”

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆造 / 会計 三浦雄二

直前会長 上松寛茂 / ブリテン 浅羽俊一郎 / 担当主事 小谷全人



会長挨拶

浅羽俊一郎



先月の例会は会長として初の合同例会。3クラブの参加者が一堂に会した和やかな交流の場となりました。テレジン収容所の子ども達の作品を見ながら野村路子さんの心のこもった話をじっくり聞くことが出来ました。感謝。

そして6月。今年度の最終月に入り、まだ最終例会が残っていますが、ホッとしています。

ところで今年の5月は沖縄返還50周年という節目でした。気になっても話題にするには重いテーマ。そこで自分なりに考えて、以前読んだ大江健三郎の「沖縄ノート」を思い出し、改めて読み直すことにしました。返還直前の1970年9月に出された本ですが、今に通じるだけに読んでいて心苦しくなりました。せめてワイズメンとして沖縄の仲間との繋がりを大切にしたいです。



毎土曜の田んぼ作業は今年は苗の補植と草取りしか参加できず。11日は土砂降り。（写真）今年からまた田んぼが増え、こちらも会員増強が課題！❖

今月の聖句

「神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る」（使徒言行録 2:17）

私の心に触れた言葉

「文化が墮落し、客観的な真理や普遍的に有効な諸原理がもはや保てなくなると、法は恣意的な強制手段あるいは回避すべき障害物としか見なされなくなる」

教皇フランシスコ

鎌倉 YMCA の一会員から勧められて現教皇が書かれた「ラウダード・シ」日本語版を読んでみた。グローバルな課題、特に地球を商品生産の資源としか見ない為政者や経済界のリーダーに対してハッキリ批判の矛先を向ける。その中に上記一文を見出した。法を便利な道具にする為政者は話し合いをサボる。私たちがマニュアル・デジタル・コンビニ生活に馴らされて、話し合いを軽んじる。文化の墮落？対話の時間を大切にしたい。対話こそ発見、創造、絆など精神文化を崇高にするものがある。そのために必要なのは時間に縛られない話し相手がいること。だからワイズ・YMCAも話し合いを大切に、楽しむ集まりでありたい。

6月「演説の日」例会 案内



日時：6月27日(月) 午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」（浦和区木崎3-6-6）

開会：点鐘・モットー・ソング・聖句・祈祷
ゲスト紹介・誕生日/祝い

議題：コロナ禍浅羽初年度を振り返り、次年度の課題・プログラムを語り合おうぜ。

閉会后その場で懇親会予定しています。

* コロナ対策・準備と後片付けは一緒に。

◆ 5月「テレジン」合同例会と作品展 メモ

5月28日(土)の3クラブ合同例会についてはすでに所沢、川越の両クラブのブリテンに掲載されていますので、このメモにはそこまでの経緯と、作品展について簡単に述べたいと思います。



そもそも3年前に網中建志(たけし)氏の紹介で浅羽が「テレジンを語り継ぐ会」代表の野村路子さん(85歳)の川越市でのイベントを見に行ったのが発端でした。

その後野村さんの話を聞かれた川越クラブの吉野会長と「き咲きてらす」で3クラブ合同例会で彼女の卓話と作品展を企画しようと話が進み、4月初めには川越YMCAで所沢クラブの東会長出席のもと、野村さんと会って私たちの気持ちを伝えました。例会は5月28日、作品展は30日まで延長する、さらに野村さんを紹介するNHK番組のDVDを上映することも了解してもらいました。埼玉県平和資料館から作品の搬入手続きは網中さんに手伝ってもらいました。また浅羽は急いで近所に作品展のチラシを配布しました。



例会前日(27日)夕方、網中氏と搬入と展示を済ませ、当日朝衣笠メン、堀和氏が助っ人で駆けつけてくれました。また「き咲きてらす」常連のご婦人方が昼前に作品とDVDを見て

帰って行きました。例会は予定通り進みました。実は野村さん(85歳)は本企画の前日まで敦賀にツアーを引率し、その帰路帯状疱疹を患って、疲労回復も不十分なまま来てくださったのです。卓話の後には「夏は来ぬ」を皆で歌い、楽しい交流の場になりました。二次会には吉野会長が参加してくれました。

29日と30日と作品展を延長し、両日ともDVDを3回上映しました。内輪の合同例会でワイズのアピールにはなりませんでしたが、来館者に野村さんの活動について知ってもらい、多少は地域の啓発になったことでしょう。翌朝、再度網中氏にきてもらい絵画の搬出を手伝ってもらいました。(浅羽 記) ❖

◆ 6月よる談会

「よる談会」は新都心けやき広場の某中華料理店。16日に開催しました。衣笠、上松、三浦、浅羽が常連で準常連が武蔵野多摩クラブの麻生さんと大輪さん。ゲストは元埼玉YMCA職員で合同例会の立役者の網中建志さん。クラブメンとは簡単な打ち合わせで済ませ、



後は和やかに語らいが続きました。とにかく基本的なサービス精神を共有する人たちが気兼ねなく本音でおしゃべりできること、すぐ仲間になれることは嬉しいことです。(浅羽 記) ❖

MEMBERS' ESSAYS

コロナ禍中、埼玉クラブ45周年を祝えませんでした。で、今期最後のブリテンのメンバーズ・エッセーは埼玉クラブの45年をメンバーそれぞれの言葉と写真で語りました。

「ワイズと私」

水無瀬隆造

私は1986年埼玉ワイズメンズクラブの会員にして頂きました。今年で36年になります。歳月の早さに驚くばかりです。現役時代の入会は時間が取れず「例会」に出席するのがやっとという時を過ごしました。当時の「例会」は楽しい思い出が続く



「例会」でした。とりわけ「メネット」のご配慮で手料理が頂け、和気あいあいとした「例会」でした。又他クラブからの参加者にも好評を得ていました。先輩各位より「楽しくなければワイズでない」の言葉に、私も出来る範囲で、各位の協力を得て種々の事を計画実行しました。しかし定年退職を迎えて、これから「ワイズライフ」が楽しめると思っていましたが、残念ながら身体的に種々の不調が出だしました。そのような中で特に思い出に残る行事は「2007年2月24日埼玉ワイズ30周年記念会」の開催であります。会員が減少し10名という小クラブにあって、近隣各クラブより73名の参加を得て祝福されて祝えた事であります。改めて「ワイズの友情」のすごさに感謝を覚えました。

これを期に今後の会員増強と高齢化対策が必要と論じあいました。しかし残念ながら十分な活動が出来ないまま17年間を過ごした事を恥じる昨今です。しかし久しぶりに「東日本区大会」「関東東部大会」にご無沙汰をお詫びしつつ参加しました。昔の知人は忘れず声を掛けて下さいました。「ワイズの友情」を改めて嬉しく思います。今年80才に達してこれからの活動が続けられるのかと、心が揺れるのは残念な事があります。90才になっても元気で活躍されている「ワイズメン」諸先輩を見るにつけ、小生もあやかりたいと思う今日この頃です。❖

埼玉 Y's 45 周年を覚え、 埼玉 YMCA 50 周年を前に

上松 寛茂

過去を振り返る



埼玉 YMCA は 2023 年 2 月で創立 50 周年という。1973 年 2 月 27 日に大宮 YMCA の設立総会が大宮市民会館で開かれ、当初は、大宮市宮町の蓮見ビルに事務所を開設、その後浦和 YMCA も開設され、1994 年 3 月に大宮と浦和を統合して埼玉 YMCA が

発足したという経緯が 2003 年発行の創立 30 年誌（横長の写真集）に記されている。その後、1985 年 7 月に所沢センター、1988 年 10 月に川越センターがオープン。浦和センターはその後数回の移転を繰り返し、現在に至っている。

YMCA はキリスト教精神に基づき、人々の交わりを通して精神、知性、身体の上ををはかり、市民として国際人として優れた人格を築き、地域や社会に奉仕できる人々を育成することを目的とした非営利の公益法人であると設立の趣旨を掲げている。

埼玉 YMCA の創立 30 周年当時の家山光雄理事長は社会教育団体として、健全な青少年の育成—高い志・健やかな身体・豊かな知識をもつ青少年の成長を助けながら、新たに、質の高い幼児教育、発達障害児、不登校生への取り組みを始めていきたいと述べている。文字通りこれを実践している埼玉 YMCA の諸活動に敬意を表したい。



埼玉ワイズメンズクラブは、大宮 YMCA 創立の 3 年後 1976 年に創設。昨年 45 周年を迎えた。小生は古巣の定年時の 2006 年 10 月前後に埼玉 Y's に入会したように記憶している。6 年前に亡くなった妻が YMCA 合唱団・オラトリオ・ソサエティー合唱団でお世話になった当時の故河村幹夫会長と当時職場の先輩である今は亡き紺野彦司メンの強力な誘いで入会したという経緯がある。以来 16 年間在籍したことになる。このうち 5 年間ほどクラブ会長だった。（順序を変えました）

未来への挑戦

埼玉 Y は初代の大場敏治総主事から今の小谷全人総主事で 7 代目。埼玉 Y's は現在の浅羽俊一郎会長で何代目かな。チャーターメンバーで現在も現役なのは小峰理孝メン一人だけ。それだけ歴史を刻んだことになる。埼玉 Y と共に半世紀を歩んだ事実は重い。

「ワイズメンズクラブって何？」という疑問を永く持ち続けていたが、一つ確実なのは YMCA のサポーター組織であること。キリスト教精神が底流に流れていること。青少年の健全な育成と地域奉仕を主眼に置いていること。これは間違いのない歴然とした根幹で

ある。これが、最近、薄れてきた、揺らいでいるように思えてならない。寂しさを感じるのは小生だけだろうか。古くからのメンバーである水無瀬隆造メンに聞くと、当初のワイズは家庭的な雰囲気にあふれていたと懐かしむ。YMCA 同様、Y's も世界的な巨大組織である。“会議は躍る”を思わせるような、組織優先、ノルマの達成、スケジュール依存・消化に流れて、人間性があとから追っていくように感じることもある。会費の高額なことも気になる。会員増強が叫ばれている。組織に頼り、依存するとアットホームな雰囲気からは遠ざかる。

Y と Y's と似通ったボランティア団体はヤマほどある。その中でここにしかないものがある。それを大切にしていきたいし、失いたくない。

YMCA には野外施設や健康レジャーの展開に関するノウハウという強力な“武器”がある。国際的な助け合いのネットワークが生かされたウクライナ避難民と YMCA とのダイナミックなアクションは Y と Y's の大きな励みにもなったし、誇りにもなった。Y も Y's も未来は開けている。希望の光は見えつつある。耳が遠くなり、社会生活にも支障が出始めた終活への入口として、そろそろ断捨離かと思っていた決断を今再考している。先輩や後輩、同僚、友人、知人の旅立ちを見送る中で、Y・Y's の存在は小さくはない。❖

語りつくせないワイズへの思い

衣笠輝夫

埼玉ワイズのことを語り始めると、原稿用紙が何枚あっても足りない。私は主に映像により歴史を語りたいと思っている。多くの方々が埼玉ワイズに関わってこられた。その一人一人に感謝をしつつ埼玉クラブの歴史の証人として画像をまとめている。さらに埼玉ワイズに関わられたユースの方々、YMCA の方々、牧師の方々をシリーズにして振り返ってみたいと思っている。❖



2008 年 2 月例会。前列左から 2 人目が衣笠メン

これから埼玉ワイズを知る楽しみ

浅羽俊一郎



埼玉クラブでの2年間が過ぎようとしていますが、ワイズとの関係はかなり遡ります。私が初めてワイズメンズクラブの存在を知ったのは1974年に東京YMCAに就職し江東ブランチに着任した時です。23歳でした。ワイズの皆さんから社会人としてのマナー、良識、つき合い方を学び、そして何よりも彼らのYMCAへの特別な愛着を感じました。職員以上にYMCAを愛している人たちでした。千葉YMCAではワイズ担当になりました。YMCAの運営に自分なりに関わっていたのでYMCAの立場とワイズ運動の関係などを考えましたが、何よりもワイズには色々課題を投げかけました。それから海外で20年間仕事し、東京駐在になった時に東京山手クラブのメンバーになり、数年のブランクを経て2020年に解散するまで山手クラブにおりました。ここでは先輩たちのクラブ運営、議論の進め方、YMCAとの関係などを深く経験しただけでなく、区の事業委員会や部長職を通して他クラブの人々と活動する面白さを体験しました。

そして埼玉クラブに入会させてもらいました。全盛期の話を聞くと、埼玉クラブはすごいクラブだったと分かります。人数が減り、高齢化しても、一人ひとりのメンと向き合うと昔ながらのワイズ魂とそれぞれの強い個性を感じます。おそらくどこのクラブもワイズ魂と個性的メンバーは欠かせない要素だと思います。それをチームとしてどう外に働きかける力に変えていくか、が問われていると思います。

2年在籍しただけで過去45年間の何が分かる訳でもありません。ただ謙虚に耳を傾け、これから綴られる埼玉クラブの新たな歴史に何かを残したい、と悩んでいます。皆さんのお支えには感謝します。❖

YMCA SPACE

◆ 浦和YMCAの小窓から

(*日頃活動を見ることのないワイズメンに普段着のYMCAを職員が紹介してくれる欄です。)

今月も浦和センターでは様々なプログラムを行いました。コロナウイルスの感染収束はまだ先が見えませんが、メンバー・リーダーともに感染予防の「なぜ」

を一緒に考えながら、対策を工夫しています。□鉄道ごんまいピクニック(クローバー)大宮駅の新幹線ホームに入って新幹線見学をし、昼食は公園で駅弁を食べ、「鉄道ごんまい」



のピクニックを行いました。クローバークラブには鉄道好きなメンバーが多くいます。鉄道の楽しみ方はそれぞれですが、共通の趣味を通してメンバー同士の新たな繋がりができました。

□浦和・川越合同 農業体験プログラム: 神奈川県相模原市(クローバー・卒業生) 農業のお仕事を体験するプログラムで、中学生以上のメンバー13名が参加しました。



実際に商品としてスーパーや学校給食へ出される玉ねぎの収穫をしました。商品を扱う責任感を感じながら、将来の「仕事」について肌で触れながら体験し考える1日となりました。(浦和センター 立岡智美) ❖

お便り



三浦メン: このところ暑い日が多くなりましたが、このように暑いとクーラーの使用が増えますが、電気料金が大変です。私のところは建設業ですので、作業員の熱中症対策に注意しています。現場では毎朝血压及び体温のチェックを行います。麦茶を常時準備し、塩分キャンデーも置いています。保冷剤も用意しています。夏はヘルメットが暑いですが、作業服には冷房装置が付いて楽になりました。スポーツドリンクは糖分が多く、あまりとりません。熱く寝苦しい夜が続きますが、皆様熱中症にはご注意ください。

堀和氏: 最近、私がハマっているのが卓球です。我が峯町会には卓球部があり、3年前に町会に入ったのを機会に卓球部にも入部しコロナ禍を外して2カ月前からやり始めました。高校時代にやっていたので全く知らないよりはまして健康と町会の皆さんとの交流のために楽しんでおります。

事務報告

・5月例会(合同)報告 会員在籍数7人 会友1人
例会出席数 6人 ゲスト・ビジター 13人
6月よる談会 7人
会員出席率 86%



編集後記: 上松メンが埼玉Yの歴史と当ワイズへの思いを綴ってくれました。さてこの一年初挑戦のブリテン編集で私の様々な提案を黙々と支えてくださった先輩諸氏に只々感謝するばかりです。一人悶々とすることも度々でしたが、学ぶこと多々あり、クラブの面々とつながる近道でした。クラブは年々歳々小さくなるも、縷々継続させて、好機を求めて清々しく進みましょう。そしてY's 100年の歴史を肅々と味わっていきましょう。(SA)